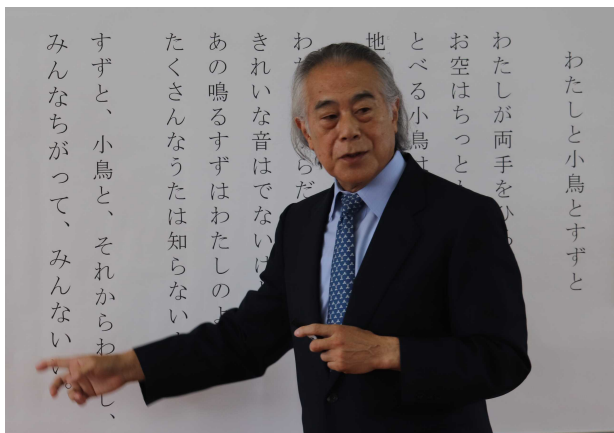


ほっかい いっぱい！ みさきっ子



御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和元年度 7月号



矢崎節夫さんから学ぶ日

令和元年7月5日（金）

御前崎小学校 児童向け講話会
11:00 ~ 12:00 5・6年生 + 参加希望保護者
12:35 ~ 12:55 3・4年生
12:55 ~ 13:15 1・2年生
白羽小学校 保護者向け講演会
14:00 ~ 15:10 参加希望保護者・本校職員
「みんなちがって、みんないい」
～金子みすゞさんのやさしいまなざし～

児童文学作家・童謡詩人であり、金子みすゞ研究の第一人者・金子みすゞ記念館館長であります 矢崎節夫 氏 をお招きしての講話会、講演会では、心に響くお話を聴くことができました。全てをお伝えすることはできませんが、児童の感想と合わせて、以下にまとめてみました。

矢崎節夫 氏 金言集

- ☆金子みすゞの詩「大漁」の「浜の喜び」と同時に「海の悲しみ」があるように、世の中のことは2つで1つ。「光と影」、「目に見えるものと見えないもの」、「喜びと悲しみ」、だれかがうれしい時はだれかが悲しいかも知れない。
- ☆詩「大漁」は「私といわし」ではなく「いわしと私」。自分中心、人間中心ではない考え方。「私とあなた」ではなく「あなたと私」でありたい。
- ☆金子みすゞの詩「わたしと小鳥とすずと」は、最後は「すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい」となっていることの意味。
- ☆「わたしと小鳥とすずと」は、「とべない、走れない、音はでない、知らない」とできないことばかり。人間はできないことの方が多い。
- ☆生まれてきただけで百点満点。子どもは宝物。両親の才能を受け継ぎ、未来に続く命を授かり、父母、祖父母になった。家族がいるから私がいる。
- ☆「辛(い)」は横棒1つで「幸(せ)」に。辛いことの後には幸せがある。幸せは人が寄り添ってこそそのもの、だから「倖せ」という字になる。

自分が生きている中での物語の考え方、自分が今どうして一人の人間としてこの地球に生まれてきたのか、それは全て周りにいるみんなや親のおかげなんだと感じることができました。矢崎さんからもらった思いやりのほっかいパワーをこれからの生活に生かしていこうと思いました。

6年 大澤 剛士

自分が辛いときには、もうすぐ幸せがやってくると思えば、どんなに辛くても前を向けると思いました。辛いときには「悲しい」という気持ちしかなかった私が、「すぐに幸せがくる」という前向きな気持ちで、毎日がさらに楽しくなりました。それは矢崎さんからもらったパワーだと思います。

6年 鈴木 明華羽

1学期の終業です。皆様の御支援、御協力に感謝申し上げます。夏休みが、事故ゼロで、健康で充実したものになることを切に願います。夏休みの子どもの見守り、ご支援も、どうぞよろしく願い申し上げます。 (文責 校長：植田)